

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4137 号 2018.1.13 発行

受験生の皆さん スマホの誘惑に勝てますか？

NHK ニュース 2018年1月9日

今週末は大学入試センター試験。最後の追い込みの時期を迎えた受験生の皆さんの苦悩、同じ道を通ってきた者として痛いほどわかります。でも、受験勉強には集中力や時間を奪うさまざまな誘惑がつきもの。一昔前はテレビやマンガ、ゲームが主流でしたが、今どきの受験生の最大敵はスマホですね。ついついスマホに手が伸びてしまう誘惑をどう断ち切るか。さまざまな工夫を取材するとともに、「ビリギャル」の原作者でおなじみの坪田信貴さんにも話を伺いました。(ネットワーク報道部記者 高橋大地 戸田有紀)

続きを読む

“スマホ断ち”宣言

「しばらくツイッターやめます。志望校に行くためです。受験が終わったら戻るなので皆さんお元気で」

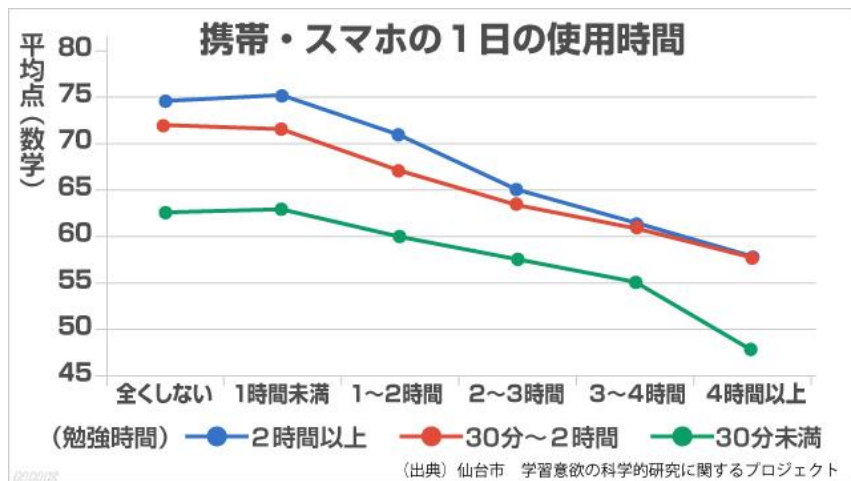
「受験勉強のため2か月くらいツイートしません。合格して帰ってきます」

今の時期、SNS上にはこんな投稿があふれています。受験勉強中でもつい手が伸びてしまうスマートフォン。特に、友人と気軽につながったり近況を伝え合ったりできるSNSは、受験生にとって大事なツールであるとともに大きな誘惑です。

このため、SNSをしばらく使わない、スマホに触れないといった「SNS断ち」を宣言するツイートが一気に増えています。

スマホ利用 1日平均3時間！

そもそも高校生はどれくらいの時間、スマホを利用しているのでしょうか。内閣府が行ったおとし（平成28年）の調査によると、インターネットに限ったスマホの利用時間はなんと1日平均2時間50分。ガラケーと言われる携帯電話が主流だった7年前に



比べると2倍以上になっていて、3年間で40分近く増えています。1日に3時間以上利用している高校生も半数近い47%に上っています。

学力低下につながる？

今や高校生の日常生活の一部ともなっているスマホ。はたして、スマホの利用は学力に何らかの影響を与えるのでしょうか。

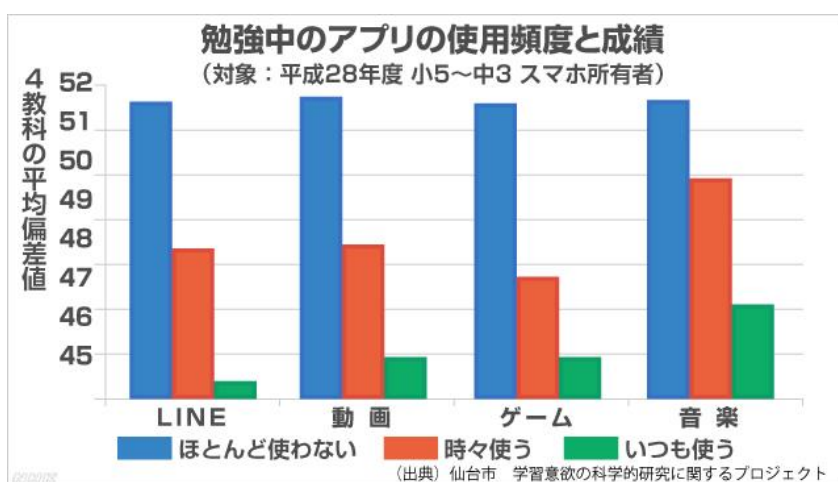
これについて、仙台市と東北大学でつくる研究グループが、学力検査の結果やアンケートなどをもとに調査を行っていました。市内のおよそ2万4000人の中学生を対象にした調査では「スマホを長時間使用すると勉強していてもよい成績をとれない」という結果が出たそうです。

例えば、1日に2時間以上、塾などを除き、自分で勉強した生徒の数学の平均点を見ると、スマホの1日の利用時間が「1時間未満」の生徒が75点だったのに対し、「4時間以上」使っている中学生は60点を下回っていたそうです。

これは「スマホの利用は1時間未満だけど、勉強時間は30分未満」という生徒の平均点にも満たない数字でした。

また研究グループは、小中学生およそ4万2000人を対象に、LINEやゲーム、動画など勉強中に利用するアプリの「種類」や「数」と成績との関係も調べていました。その結果、「使用するアプリの数が増えるほど、国語・社会・数学・理科の4教科の成績が下がる

ことが明らかになった」ということです。仙台市学びの連携推進室は「少なくとも年単位で見た場合は、勉強中はスマホの使用を控えることが成績向上につながると言える。スマホをやめてすぐに効果が出るかわからないが、日頃から適切な使い方を身につけることが大切」と話しています。



予備校もスマホ対策を指南

受験シーズン到来を間近に控え、予備校もスマホ対策に乗り出しています。

全国展開している大学受験予備校の「武田塾」によりますと、この時期、生徒から「スマホを思わず使ってしまう」という相談を受けることが多いといいます。

そこで、それぞれの予備校の校舎では、通っている生徒や受験生のために、ホームページ上でスマホとの付き合い方を指南しています。例えば、神奈川県相模原市にある橋本校の

ブログでは「受験期にスマホ、使っているの？」と題してアプリごとに具体的にどうすべきか解説しています。

武田塾 橋本校のブログ

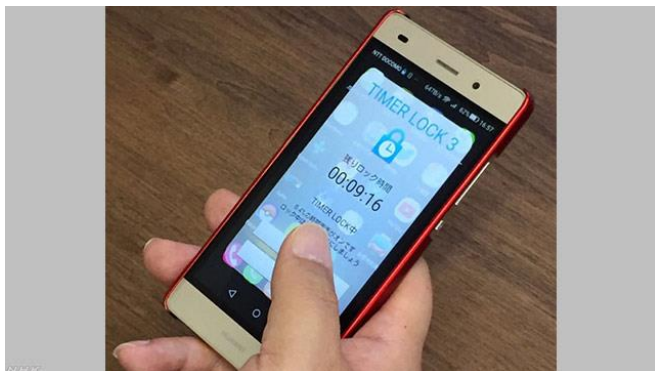
それによると、ツイッターなどのSNSは「『〇〇時まで勉強してくる』などと投稿して画面を閉じるとよい」。

ゲームについては「1週間我慢してみる。そうすればゲームに対してのモチベーションを落とすことができる」と指南。難しい場合は「データをバックアップしてからアンインストールするのも手」と



いったアドバイスもありました。

武田塾橋本校の鈴木伸治校舎長は「スマホに取り込まれてしまうと、『合格』という目標を達成できなくなってしまう。自己管理ができるのなら、時間などルールを決めて使うことが大切。一方で、勉強アプリなどを有効に活用すれば、むしろ学習効果を上げることもできるので、自分なりの付き合い方を見つけてほしい」と話しています。



これでスマホ“封印”

予備校側もあの手この手で受験生にアドバイスしていますが、せっかくアプリを消しても再びインストールしてしまったり、使う時間を決めても守れなかったりする人もいて、残念ながら人間の意思はそれほど強くはないようです。

そんな人向けに物理的にスマホを“封印”するアイテムも開発されています。

その1つが一定の時間、スマホを使えなくするアプリ。時間とパスワードを設定すると、決められた時間まで画面にロックがかかり、電話機能以外は一切使えなくなります。途中でロックを解除しようとする、100円が課金される機能がついたものまで出ています。開発した会社によりますと、これまでのダウンロード数は合わせて10万以上に上るとのことです。

そこまでやってもスマホに手が伸びてしまうという人には奥の手もあります。

それが、袋の中にスマホを入れ、宣誓書に「いつまで」と目標を書いてシールで完全に封印する商品です。物理的にスマホに触れなくするのです。

神社の絵馬をイメージして作られたということで、無事、合格したあかつきに封印を解けば喜びも倍増するとか。この時期、親や友人がお守りと一緒に受験生に贈るケースが増えているそうです。



「ビリギャル」の原作者は

涙ぐましい「スマホ断ち」への努力。学年最下位の女子高校生が難関大学に合格する実話をもとにした映画「ビリギャル」の原作者で塾講師の坪田信貴さんは「今の受験生の最大の敵はスマホ」と指摘します。

「7割はLINEなどSNSの利用で、グループの中で次々にメッセージが送られてくると、返信しなければという強迫観念に陥りやすい。また、3割は動画サイトの利用で、こちらも次々と関連する動画が流れてきて、なかなかやめることができず、結果的に勉強に集中できなくなってしまう」と話す坪田さん。

受験生に対しては「本番の試験でスマホは使えないのだから、せめて直前のこの時期だけでも、本番の練習のつもりでスマホを封印してほしい。友達や家族にも



『この期間はスマホを使わない』と宣言し電源を落とすだけでも勉強に集中できる。その努力が大切です」とエールを送ってくれました。
受験生の皆さん、頑張ってください！

先生の先生派遣 小中「障害児学級」質の向上へ 大分合同新聞 2018年1月12日
児童に割り算を教える吉松真里子教諭(左)と、様子を見守る高橋徹弥教諭(中央)＝国東市の伊美小学校

県内の特別支援学校に勤務するベテラン教員が小中学校の「特別支援学級」を訪問し、担当教員を指導している。2017年度から県教委が始めた3年計画の取り組み。小中学校には障害児への指導経験が少ない教員もおり、特別支援学校での子どもとの関わり方や教え方などのノウハウを学んでもらい、専門性を高める。



特別支援学級は通常の学級で学ぶのが困難な児童生徒のため、障害の度合いに応じたカリキュラムやペースで指導する。県教委によると市町村立の小中学校308校が設置し、計1956人が学んでいる(17年5月1日時点)。

訪問制度では、ベテラン教員5人が近くに特別支援学校がなかったりする国東、佐伯、玖珠、九重の4市町で、13小中学校を回っている。各校の特別支援学級には、障害が重く、特別支援学校の就学基準に当てはまる子どもも通っているという。

教員はそれぞれ2、3校ずつ受け持ち、1人が最大105日間、小中学校で指導する。初年度は学級の実態や課題を把握し、2年目以降は、特別支援学級を担当していない教員にも指導法を教える。

国東市国見町の伊美小学校(松成登美子校長)の特別支援学級では、担任の吉松真里子教諭(47)が児童に教える様子を、日出支援学校の高橋徹弥教諭(45)が17年4月から見守っている。支援学校での約20年にわたる経験を踏まえ、授業後には吉松教諭に細かな改善点を伝えている。

吉松教諭は16年4月、初めて支援学級を受け持った。障害児を教える専門免許は持っているが、特別支援学校での勤務経験はない。月3回訪れる高橋教諭からは、授業の組み立てや児童の個別支援計画の作り方などのアドバイスを受ける。「子どもの様子が分かった上で具体的に指導してもらえ。保護者の安心にもつながっている」と感じている。

特別支援学級の設置数は保護者からの要望もあり、年々増えている。一方、特別支援学級の担任で専門の免許を持つのは45%にとどまる。県教委特別支援教育課は「多くの教員に指導法を身に付けてもらうとともに、適切な教育が受けられる仕組みづくりを進めたい」と話している。

寝屋川衰弱死、同級生「異変、何度も担任に訴えた」 光墨祥吾、長谷川健、大部俊哉



朝日新聞 2018年1月11日
柿元愛里さんの自宅前に手向けられた花束。十分な食事を与えられなかったとされる愛里さんを悼み、菓子やプリン、パンなども供えられていた＝大阪府寝屋川市、大部俊哉撮影

大阪府寝屋川市の住宅の隔離された小部屋で柿元愛里さん(33)が衰弱死した事件。愛里さんは小学6年生の1月から



学校を休み、中学校には1日も通っていなかった。長期欠席中の児童生徒に学校側はどう対応したのか。同級生は愛里さんの「異変」に気づき何度も担任に訴えていた。市教育委員会は「当時の資料がなく、検証は難しい」とするが、来月には再発防止策を話し合う考えた。

捜査関係者や同級生によると、愛里さんは17歳になった2001年に複数の病院で統合失調症と診断され、02年ごろから自宅内のプレハブの小部屋に隔離されて生活。昨年12月、衰弱死した。会社員の父泰孝容疑者（55）と母由加里容疑者（53）が同月、府警に死体遺棄容疑で逮捕され、今月2日に監禁や保護責任者遺棄致死容疑で再逮捕された。両容疑者は「小6ごろから体調が悪化した」「暴れるので閉じ込めた」と供述しているという。

さらに、自宅内に設置された監視カメラの映像などから、愛里さんはプレハブの部屋に入れられる前から複数の小部屋に閉じ込められ、小6から中学生のころには隔離状態が始まっていた可能性も浮上している。

当時の同級生らは、愛里さんの「異変」を心配し、学校に指摘していた。

「なぜ、学校に来ないの？家で何か起こっているのでは」。小6で同じクラスだった男性（33）は、担任教師に何度も尋ねたのを覚えている。担任は「事情がある」と言うばかりで、詳しくは教えてくれなかった。男性の発案でクラス全員が愛里さんに手紙を書いたが、返信はなかったという。「もっと行動に出ればよかった」と悔やむ。

<高齢者福祉 東北の現場>青森 自立支援にロボ活用 3割近い利用者の要介護度改善

河北新報 2018年1月12日

さまざまな機器を使い、リハビリに取り組む「ほほえみ三戸」の利用者＝青森県三戸町



青森県三戸町の老人保健施設「ほほえみ三戸」はロボットを活用する先進施設として全国に知られる。

施設1階の機能訓練室にさまざまな機械を扱い、操作法を身に付けたお年寄りが集う。

「来るたびにできることが増えてうれしい。リハビリが楽しみ」。介護保険のサービスを使い週3回通う三田敏子さん（78）＝青森県田子町＝が語る。

8年前に脳梗塞を患い、右半身にまひがある。3年前から空気圧で関節を伸縮させる「パワーアシストハンド」で回復を目指す。

「機械を使う前と今とでは体が全然違う」。ほとんど動かなかった右手の指は文字を書き、包丁でリンゴを切れるまでになった。

ほほえみ三戸は11年以降、移動支援を中心に機能の異なる製品を次々取り入れた。多くを利用者のリハビリ用に充て、今は十数種類をそろえる。医師の意見を基に、作業療法士や理学療法士が利用者の状態に合うロボットを選ぶ仕組みだ。

過去に、従来のリハビリで効果が表れなかった利用者がロボットを使い始め、足を動かせるようになったケースがあった。

「ロボットを入れたら、自分たちは要らなくなる」と初めは導入に慎重だった職員意識が変わった。「利用者の変化を間近で見て、勉強しよう、やってみようと思えるようになった」。作業療法士の砂庭忍さん（40）が振り返る。

一般的なロボット導入の目的と幹部が抱く理念は異なるようだ。「介護の負担を軽くするための道具ではなく、利用者の自立支援のために使う」と事務局長の諏訪内三千雄さん（55）は強調する。本格導入後、3割近い利用者の要介護度が改善したという。

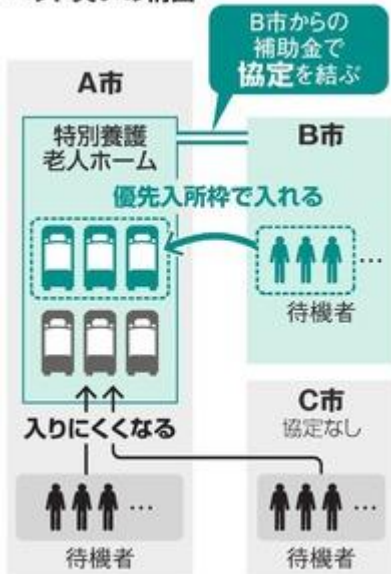
国などの補助を受けず、購入や賃借、維持管理に年間約700万円をかける。「立てなかつた人が立ち、歩けない人が歩けるようになるなら、安いもの」。諏訪内さんは言い切った。

東北の高齢者福祉の現場で、さまざまな機能を持つ介護ロボットが活用され始めた。国や自治体の補助制度が整い、スタッフの負担軽減や勤務意欲の向上、お年寄りの自立支援など幅広い効果が見込まれている。現場が人手不足で、利活用できる機会が乏しく、導入が進まないと課題を指摘する声もある。(生活文化部・肘井大祐)

特養「ベッド買い」が横行 自治体、補助金で入所枠確保 沢伸也

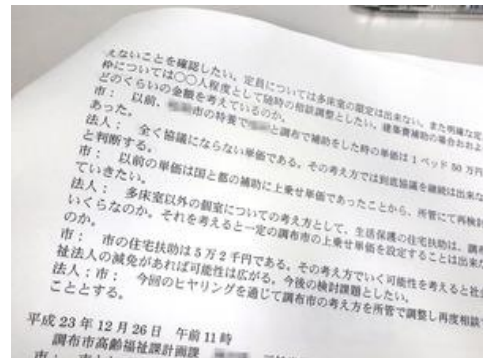
朝日新聞 2018年1月12日

ベッド買いの構図



特別養護老人ホーム（特養）の優先入所枠を補助金を支払って確保する事例が、複数の自治体で行われていることが、朝日新聞の取材でわかった。「ベッド買い」と呼ばれ、住んでいる地域や所得などに関わらず、平等に福祉サービスを受けられる介護保険制度の趣旨に反している可能性が高い。厚生労働省は実態を把握するための検討を始めた。

ベッド買いは、自治体が他の自治体にある特養を運営する社会福祉法人と協定を結び、補助金を支払う見返りに、自らの住民が優先的に入所できる枠を確保



する仕組み。全国の都道府県で特養の入所待機者が最も多い東京都内の23区と近接5市に取材したところ、8割以上の23区市がこうした協定を結び、計3328の入所枠を持っていた。協定の多くは介護保険制度が始まった2000年よりも前に結ばれたものだが、いまでも有効だ。東京以外でも行われている可能性がある。

特養などの介護保険施設は、市区町村が3年ごとに住民の要介護度などからニーズを予測し、定員数を決定。社福法人などが都道府県や市区町村の認可を得て建設する。建設の際に自治体は補助金を支出するほか、その後の運営費として介護報酬を支払い、これらは自治体ごとに決める65歳以上の介護保険料に反映される。都市部は地価が高く土地の取得が難しいことに加え、保険料などを抑えたい自治体の意向もあって建設が計画通りに進んでいないのが実態だ。

そうしたなかで、自治体は入所待機者を減らすため、特養建設よりも安くすむベッド買いの協定を結んできた。ただ、そのぶん、入所枠を買った自治体以外の希望者が入りにくくなり、しわ寄せが行く構図。介護保険制度は、ベッド買いではなく、仮に自らの住民の保険料が高くなっても施設整備を進めることを想定している。

「福祉落語家」通算7千席達成 尼崎の壽文寿さん

神戸新聞 2018年1月12日

福祉施設や学校などを巡り、障害のある人やお年寄りに笑いを届ける「福祉落語家」の壽文寿（ことぶき・もんじゅ）さん（56）＝兵庫県尼崎市＝が11日、神戸市西区のマンションで高座を務め、通算7千席を達成した。壽さんは阪神・淡路大震災後に仮設住宅を回り落語を披露しており、震災から丸23年となる17日を前にした達成に「一年でも

一日でも長く高座を続けていきたい」と意気込んだ。

壽さんは吃音を克服しようと1971年に落語を始め翌年、初めて地域の高座を務めた。芸歴は45年を経過し、昨年だけでも高座数は439席を数える。

コミカルに7千席目の講座を務める壽文寿さん＝神戸市西区樫野台5

震災後の96年春からは、「笑いで生きる活力を」との思いから、阪神地域から東播地域にかけての仮設住宅46カ所を月に1回ずつ訪問し落語を続けた。

被災者と触れ合う中で、仮設住宅での生活環境が厳しいことを知り、健康法を織り交ぜた落語を考案。今でも「励ましてくれてありがとう」と街角で声をかけられることがあるという。

7千席目の高座は同市西区のマンション「オーク・スクエア西神中央団地」の老人会が主催。壽さんはマンション図書室で住民ら約40人を前に、古典落語「犬の目」を軽快な語り口で披露し、会場を大いに沸かせた。

観覧した住民の男性(77)は「(震災のあった)1月は特別な月。震災後も落語を続け、7千席に達したと知り驚いた」と感心していた。

披露後、アンコールがかけられ早速7千1席目を務めた壽さん。「うまい落語より自分自身が楽しめるよう続けたい。笑いは誰にでも平等です」(阪口真平)



おかもとまりの夫が訂正「発達障害ではなく傾向」 日刊スポーツ 2018年1月11日

音楽プロデューサーのnao(37)が、妻でタレントのおかもとまり(28)が自身について「軽度の発達障害」と明かしたことについて、「正確には、発達障害ではなく、発達障害の傾向がある(性格)という事」と訂正した。

おかもとは5日のブログで「旦那は、昔から軽い発達障害(勉強や記憶力、音楽の才能はピカイチなのに、簡単なことができないの)」と告白し、大きな反響を呼んだ。

反響を受けnaoは11日、ブログを更新。再び受診したクリニックで「発達障害的な要素は多かれ少なかれ誰しもあるらしく、性格との判別が非常に難しい」と言われたという。アスペルガー症候群の傾向がみられるというが、以前に受診した際にはその結果を妻に「軽いかんじだったよ」と伝えたことで、「まりは軽度の発達障害と認識し、私も特に否定もしませんでした。これもわたしのマイペースな性格のせいです。ブログに掲載時も確認しましたがマイペースなせいか特に気にしませんでした…」と認識のズレが生じていたことを明かした。

自身の症状については「ダメな部分の性格もゆっくりかければ改善するとお医者さんは仰っていたので、今年は片付けなかったり、ズボラな自分と真摯(しんし)に向き合い、治していこうと思います。まりに、これ以上ストレスを与えないためにも、自分が変わる事で見せていければと思います」としたが、「私は発達障害の傾向があると言われていますが、私は決して自分自身で大変だと感じたことはありません。あくまでも私は... ですよ」と強調した。

鉄道各社、ホームドアの設置急ぐ 読売新聞 2018年01月12日

事故を受け、JR東日本はホームドアの設置計画を前倒しし、昨秋に京浜東北線の2駅に新たに設置。同線の他の4駅でも工事を進め、2019年末までに完成する予定だ。蔵駅は19年度末までに整備する。

東武鉄道はすでに和光市駅に設置しているが、3月に川越駅に設置するなど、20年度までに新たに5駅に整備する。21年度以降も8駅で整備予定だ。西武鉄道も昨年2月、20年度をめどに所沢駅で整備すると発表した。県も今年度、ホームドア設置の補助制度

を創設し、約1億円の予算を計上した。

駅に設置されたホームドア（11日、JR浦和駅で）



だが、県交通政策課によると、県内235駅のうち、ホームドアが設置されている駅は12駅しかない。ホームドアの設置には数億円～十数億円の費用がかかり、すぐには進まないのが現状だ。そこで県は鉄道各社と協力し、事故防止に有効な周囲の声かけを促進しようと取り組んでいる。去年は蕨、川口駅など県内5駅でサポートの講習会を実施した。

講習会では視覚障害者への声のかけ方や、危険な場面などを視覚障害者などに説明してもらい、駅のホームで介助の仕方などを体験。129人が参加したという。県は来年度以降も講習会を続けていく方針だ。

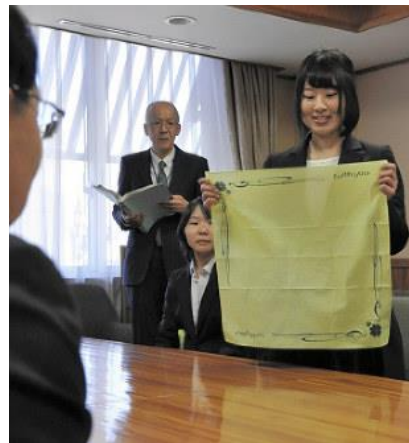
「いつもそばに」ハンカチで自殺予防呼び掛け

毎日新聞 2018年1月12日

山梨県の後藤斎知事（左）にハンカチについて説明する県立大の中込彩乃さん＝甲府市内で2018年1月11日、田中 理知撮影

自殺予防などに携わる14団体が、対策を呼び掛けるハンカチを5000枚作製し、11日から山梨県内で販売を始めた。「誰かがそばにいてくれる」の思いを込め「With you」とのメッセージを印刷。売上金は県の自殺対策事業に使われる。

「いのちを守る県民運動推進会議」が県の補助金約250万円を使って作った。ハンカチは縦横50センチの緑色で税込み500円。



「広辞苑」改訂版を発売 岩波書店、10年ぶり

広辞苑第7版・新語
新たに収録された言葉

安全神話	上から目線	がっつり
自撮り	立ち位置	アプリ
デトックス	パワースポット	LGBT
限界集落	東日本大震災	雇い止め
ふるさと納税	iPS細胞	廃炉
モラルハラスメント		ブラック企業

共同通信 2018年1月12日
国語辞典のベストセラー、岩波書店の「広辞苑」の10年ぶりとなる改訂版（第7版）が12日、発売された。「ブラック企業」「LGBT」（性的少数者）など、第6版の刊行後に定着するなどした言葉約1万項目を追加し約25万項目を収録。無料で利用できるネット辞書の普及などで紙の辞書を

取り巻く環境は厳しいが、辞書界の代表的存在の改訂で、書店の活性化などが期待される。

東京都千代田区の三省堂書店神保町本店は、特別売り場を設置。

改訂版では、科学技術の進歩で一般的に使われるようになったIT用語や、東京電力福島第1原発事故後に注目された科学分野の言葉などを重点的に選定した。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉社人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行